

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191700030		
法人名	医療法人誠晴會		
事業所名	グループホームふるさとの森		
所在地	佐賀県藤津郡太良町大字糸岐6851-3		
自己評価作成日	平成30年9月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成30年10月3日	外部評価確定日	平成30年12月26日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然豊かな多良山系に位置し、麓には有明海を臨む緑に囲まれたグループホームです。施設の畑では四季折々の作物が収穫できます。収穫した作物は食事に提供し、時には入居者様と協力して調理を行います。また、カラオケや美容室への外出等、本人様の希望に合わせた楽しみ作りへの支援にも力を入れています。併設の老人保健施設より各専門職による医療面と機能維持へのサポートが受けられる体制も整えてあります。職員は利用者様の想いや感情を大切にし、個性に合わせたサービスを提供出来るよう、一緒に歩む心でその時々に応じて最適な支援方法を模索し、向上心を持って試行錯誤を重ねています。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>小高い丘の上にある事業所は、周りの素晴らしい景色を望むことができる。利用者は、日常の散歩や外気浴の際に、特に四季の移り変わりを感じ、心の安らぎを覚えている。</p> <p>事業所開設にあたって、理事長の「新しい介護」「新しい発見のある介護」を目指したいという想いで、1年かけてホーム独自にケア理念を創り上げている。先入観に捉われず、尊厳を尊重し、人生の先輩として、また人として真剣に向き合う支援は、利用者との信頼関係もできている。それが良き支援となっている。管理者の「方向は同じでも、方法はいくつもある。挑戦してみよう」との姿勢は、職員の励みとなっている。</p> <p>全館バリアフリーの室内は、床下換気装置の採用で空気の上みも無く、清掃も行きとどき、明るく、静かで快適な生活空間である。浴室、トイレも利用者が使いやすい造りになっている。食事は、ここで調理されており、調理の音や香りなどは五感を通して食事の楽しみを増している。利用者も自分のできる範囲で調理や食事の準備や後片付けに関わっている。家族や隣接の老健事業所の協力を受けながらの外出の機会も多い。地域との結び付きが益々期待される事業所である。</p>
--

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に掲示を行い各職員への周知を行っている。また、月一回の職員会議の場で、実践できているか再確認の場を設けている。	事業所開設にあたって法人の基本理念を踏まえて、ホーム独自のケア理念を一年間をかけて、じっくりと検討を重ねて職員全員で創り上げている。理念は玄関に掲示するだけでなく、スタッフが記録する際に使用するカウンタールームに置いて、何時も目に触れる様にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行きつけの美容室や地元の行事への外出を支援し、地域との繋がりを保てるよう努めている。また、ボランティアの慰問を通して地域の方々と定期的な交流をできるようにしている。今後はグループホーム主催の行事を企画し、地元の方々を招待できればと考えている。	地域の自治会に加入し区費も納入している。地域の情報をもらったり、老人クラブの便りを届けてもらっている。文化祭や地域の祭りにも出かけている。文化祭に短歌を出品し、秀作に選ばれた利用者もいる。学童保育の子どもたちとの交流は、利用者の楽しみでもある。以前は、地域の清掃作業にも出かけていたが、地域の理解を得て、現在は行っていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族様へは、来所時に本人様の状況や支援方法について説明し、認知症への理解や家族様の不安軽減に努めている。しかし、近隣地域への積極的な地域貢献はまだ出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では施設の活動内容を報告し、積極的に意見を頂いている。頂いた意見をサービス向上に活かせるよう職員会議や申し送りの場で職員に伝達している。	年に6回の開催である。入居状況、活動報告だけに終わることがない。消防訓練の反省、豪雨の際の対応、看取り介護についての今後の取り組み、日常生活の中での小さな積み重ねである生活リハビリの事、地域の諸情報など、多様な意見交換や質疑が行われ極めて有意義な会議になっている。支援の原点に関わる意見もあり、重く受け止めて、サービスの向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議へ出席し、地域包括支援センターとの連携も行っている。地域の実情やグループホームに求められる役割についても情報収集し、地域に貢献できるよう努めている。	管理者は行政の担当課に度々訪ねており、顔なじみの間柄になっており、相談事も多い。小中高生との交流機会についてアドバイスをもらったり、地域ケア会議の情報を得る等、行政との関わりが深い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	二か月に1回老健施設と共同の身体拘束廃止委員会や院内での勉強会に参加し、身体拘束についての理解を深め、職員へのフィードバックも実施している。また、日常的に玄関の施錠は行わず、一緒に散歩するなど気分転換行っている。	身体拘束をしない支援についての職員の意識も高く、拘束の事例も無い。玄関からの出入りも自由で、職員が目や耳、様子からの察知、かわいい子犬の鳴き声センサーで外出を確認し、その都度適切に支援している。居室でのセンサーマットも使用していない。窓も二重ロックもなく、自由に開閉できる。家族からのナースコールや寝具の鈴の着用の要望もあったが、拘束がない支援についての理解をいただき、納得してもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	老健施設での勉強会に参加し、職員間での意識統一を図っている。また、外部の勉強・研修会へも積極的に且つ計画的に参加し、虐待への理解を深められるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部での勉強会に参加はしているが、実際に現実味に欠ける事もあり、制度や事業については職員によって理解度にバラつきがある。今後どのようにして学び活用していけるかが課題。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面に沿って丁寧に分かり易い言葉にて説明行っている。また、不安や疑問など話しやすい雰囲気にも工夫しながら理解力アップを図っている		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に介護相談員の訪問により、利用者からの意見や要望の聞き取りがなされている。家族様には運営推進会議や面会などの際に話しやすい雰囲気を作り聞き取りに努め、運営に反映出来るよう努めている。また玄関口には意見箱を設置している。	面会時における職員の笑顔と誠意ある対応は、家族に安心感と何でも相談できる雰囲気を感じさせている。要望や意見は真摯に検討して、支援や運営に活かしている。アルコールを好む利用者の希望を、家族、スタッフ一同、上司、主治医とも相談し、本人と真剣に向き合い、支援に努めている事例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員個人から運営に関しての意見・提案が出る事は少ない為、月1～2回の職員会議時に、運営に関して関心を持てるような議題の提案を行うなど工夫している。	職員の自由な発想や創造力、挑戦を期待しての運営や支援である。管理者は方法はいくつあっても、同じ方向をむく運営を心がけている。職員の要望や意見を吸い上げ、全体で協議し、運営に活かしている。上司も意見等をしっかりと受け止めている。若い職員とは、LINEをきっかけにして意見や要望を聴き、運営に活かす工夫もしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考査では職員の聴き取りを行い、職員の意欲向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の目標や熟練度に合わせた研修や勉強会へ参加できるように勤務調整や研修費の補助などの支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム交流会や地域ケア会議、事例検討会への参加を促し、視野を広める事でサービスの質向上を目指している		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様への聴き取りを重視し、不安や悩み、ニーズの把握を図る。家族等からの聞き取りも併せて必要な支援を見極め、適切なサービスを提供できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族様の苦労を労わると同時にこれからの生活に抱えている不安も聴き取る。サービスを通して、家族様が安心して前向きな気持ちを抱けるように図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様やご家族への聴き取りと生活状況などから必要な支援を提案しながら、適切なサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介助する」ではなく、同じ目線で一緒に生活していると思って頂けるような「お手伝い」を心掛けている。また、食材の下ごしらえや調理法など、入居者様の得意分野で職員がサポートを受ける環境も整えている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には月一回写真とお便りを送付し、遠方にお住まいのご家族にも、ホームの日常生活を身近に感じて頂く事で関係性が保てるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医や行きつけの美容院など、これまでの人間関係が継続できるよう外出支援をしている。老健利用者であるご家族や知人の方との面会も支援を行っている。	利用者の想いや希望を聴いて、関係継続の支援に努めている。友だちや近所の方の訪問や、携帯電話の使用などの支援もある。家族と行きつけの美容室に行く方もある。家族の理解を得て、外泊する方も多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介行い入居者間のコミュニケーションがスムーズにできるよう努めている。また、お互いの持病や障害について相互理解できるよう、分かり易い説明に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時候の挨拶に一言添える等、退所後も関係が継続していると伝え、相談しやすい環境と関係の維持に努める。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人様の言葉に出来ない想いを、言葉の中や表情から汲み取れるよう努める。聞き取りが難しい方には家族様の話や生活歴などの情報から意向を汲み取っている。	担当制をとり、より深く利用者の心情や希望を把握している。一人ひとりに寄り添いながら、日常の雑談、つぶやき、表情の変化、目の動き、行動等から思いを察して支援に活かしている。スケッチブックを準備したり、樹木と一緒に買いに行き居室から見える場所に植えているのは、その一例である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族との雑談からも情報をえられよう普段の会話にも工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様のペースを優先し、支援の無理強いはない。また、過介助とならないよう本人様の生活機能を把握すると共に、職員間の情報の共有とケアの統一を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間でのカンファレンスを実施する他、朝礼での申し送り時にも気づきの共有を行っている。また、担当者会議でのご本人やご家族からの意見も介護計画に反映している。	全職員が一つのチームになって、利用者本位の具体的で実現可能な計画が作成されている。利用者や家族の暮らしの要望をふまえ、利用者の解決すべき課題を細かくくだいた計画書である。計画の見直しは、利用者の状況に応じて、随時、又は定期的に柔軟に見直されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録の他、職員の気づきを申し送りし情報共有を行っている。集まった情報はカンファレンスを通して介護計画にも反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケア理念に掲げるチャレンジ精神と自由な発想の基、固定観念に捉われず試行錯誤しながら支援を行っている。現在は定期的な飲酒・地域の図書館の活用などの支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントに出かけたり、地元グループの慰問を受け入れるなど交流を図っている。その他、短歌を趣味にされている入居者様が地元新聞や文化祭に作品を出品している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期受診の他、定期以外の受診や他の病院を受診希望される場合も希望に沿うよう支援している。かかりつけ医とは受診時に入居者様に関する情報交換を行い、信頼関係の構築を図っている。	利用者と家族が希望するかかりつけ医での受診も可能としているが、地域の協力医療機関での受診をする方が多い。その際は病院まで同行支援をして、診察結果については家族に必ず報告をしている。遠方や連絡がつきにくい場合は、メールやラインを活用することもある。協力医療機関の往診は無いが、24時間何時でも相談できる。隣接する法人事業所の看護師の支援も受けている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護職員とは情報交換できており、処置の要請や医療的判断を相談出来ている。また、必要時には老健看護師からの協力を受けられる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に訪問し、支援相談員との情報共有する事で、早期退院に向けての体制づくりに努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス計画の更新や体調の変化があった際などに、ホームでできる事とその限界について理解して頂けるよう説明している。重度化された場合は病院や適切な施設等との連携が出来る状況であり、家族様の不安軽減に努めている。	利用にあたって重要事項説明の際に「重度化対応に係る指針」に基づいて利用者・家族と納得のいく話し合いが行われている。終末期における看取り介護は現在、行われていないが、これからの大きな課題として捉えている。	運営推進会議でも委員から看取り介護についての意見が出されている。最後までここで過ごしたいと希望する利用者がある場合に備えて、職員のスキルアップや環境を整える準備が検討されており、その成果を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回、GH交流会でAED取扱いの研修に参加しているが、全職員が参加できているわけではない。自施設内での自発的な訓練はまだ実施していないため、実践力には不安がある。日頃からの意識付けの為に年にも年に3~4回は実施する必要があると考えている、		



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に備えた訓練は消防署と共同で、年二回定期的に行っている。地震などその他の災害に関する訓練はできておらず、これからの課題である。	夜間を想定した消防、避難訓練が年2回実施されている。消防署の指導も受け、運営推進会議にも報告し、今後の課題をきちんと把握している。地域の消防団や住民との協力体制は、十分とはいえないが今後の課題として考慮中である。事業所の立地条件上、特に台風、大雨などの自然災害に備えてのマニュアルも作成されている。	隣りに同じ法人の老健施設はあるが、周辺の民家とは離れている。それだけに消防団を含む地域との協力体制の構築についての再検討を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導の声掛けひとつにしても、其々の個性があり、同じ声掛けではいけない事の重要性を職員全員が周知している。丁寧な言葉遣いの中にも方言を交える事で人格の尊重になる事も理解している。	何よりも人としての尊厳・人格の尊重を支援の基盤としている。言葉かけ一つでも利用者一人ひとりの個性を理解し、その方に合った支援ができています。接遇を含めて、研修会や日々の関わりの中で見つめ直しもしている。管理者の適切な助言や指導はサービスの向上に結び付いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のささいな会話から本人の考えや要望を聞き取れるよう、リラックスして話して頂けるような環境作りに努めている。また、自己決定が困難な場面では、さりげなくきっかけを提案できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や排せつ等、生活の流れを業務に合わせてしまわないよう、その時の気分合った生活をして頂けるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の洋服を決定する事は困難でも、一緒に見てもらいながら支援している。女性では、アロママッサージやネイル、化粧なども気分に合わせて実施している		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを伝え、どんな準備が必要か一緒に考える時間をとるよう配慮している。無理に勧めるのではなく、その日の気分に合わせながら、下ごしらえや味付け等が出来るよう下準備を行う。片付けでは食器の拭き上げで、皆様の状態に合わせた声掛けや準備など、出来る限り参加され易い環境に配慮している	ホームの台所で調理された食事をいただいている。調理の匂いやまな板の音は食事への関心を高めている。ゆったりとした食事風景で、利用者同士や職員との会話もある。体調や気分によって食事時間を遅らせたり、スタッフルームと一緒に食事を摂る場合もある。献立は管理栄養士がたてている。希望食や行事食もあり、利用者にお重に詰めてもらうおせち料理は、ホームの自慢でもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の食事や水分の摂取量を把握・共有し、摂取量や本人様の希望に応じて食事量の調節や栄養補助食品の提供を行っている。特に、水分摂取量については定期的に情報交換を行い、ゼリー提供や食器の工夫で水分量の維持に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、セッティングを行うが日中は実施されない方が多い。しかし、就寝前は全員実施して頂き、義歯も洗浄剤で夜間預かっている。会話の中で口臭や汚れの発見に努め、特に舌苔の発見に努め、本人様納得されるよう丁寧に説明行いながら保清に努めている。協力歯科医の往診も受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時のトイレ誘導や声かけにより、失敗予防や自力のパッド交換を促せるよう努めている。また、排泄パターンを職員間で共有し、適時のさりげない声掛けにて交換が習慣化されるよう取り組んでいる	利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握されている。適切な声かけや誘導、布パットの蒸れ具合の確認、その他様々な工夫で排泄の自立を目指している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬剤に頼らない自然な排便を目指し、腹部マッサージや定時の水分補給を実施している。また、便秘と運動の関係について説明しながら軽体操にも取り組んで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人様の希望を聞き取り、入浴日や入浴頻度へ反映している。入浴を好まない方には部分浴や更衣の勧め、声掛けの工夫などを行い、本人様が清潔保持に関心を持ち自発的に入浴して頂けるよう働きかけている。夜間の入浴を希望される方もいらっしゃるが、現在の勤務体制では困難であり、ゆっくりお話を聴き説明する事で納得して頂いている。	夜間を除いて、入浴日、時間帯、入浴順等に特に決まりはなく、利用者の希望でゆっくりと入浴をしてもらっている。体が不自由な方も、入浴器具の使用で湯船に入ってもらっての入浴支援である。浴槽は浴室の中央に置かれ、入浴介助がしやすくなっている。また、これからの季節柄、ヒートショック防止対策として、脱衣場、浴室の室温などにも十分な配慮が見られる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本、自由に過ごして頂いているが、昼寝は声掛けし、ベッドでゆっくり休んで頂いている。意思表示が困難な方には、表情や座位姿勢等から状況を汲み取り、安静時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が確実に把握、理解しているかはやや不安がある。しかし、その方にとって重要な薬については、管理者、看護職にて適時説明しており、変化の確認なども出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下ごしらえや洗濯物を干す・たたむ等の家事など、自分から進んで関わって頂けるような働きかけが大事であり、その時の気分や能力に合わせるのが難しい。しかし、カラオケや園芸、定期的な晩酌等の楽しみ作りにも努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外を眺められる、落ち着かれない、等の様子が見られた時は外気浴にお誘いしている。また、カラオケ外出の他、不定期のドライブや地域行事への参加ができるよう外出支援している。	利用者のその日の希望によつての外出支援が多い。高台にあるホームからの風景やみかん園の作業等を眺めながらの、毎日のような散歩や外気浴などの支援である。隣接事業所の快い応援を得ながら、地域の神社、道の駅までのお出かけ、エイサー見学、コスモスやさざんか、藤の花などの見学のドライブ、弁当やおやつを持っての花見等もある。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様とご家族の希望に応じて、本人管理か事務所預かりの対応を行っている。必要時にはお渡しし、買い物等への使用を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様への電話を希望される場合は職員が取り次ぎを行っている。家族様へのお便りとして、年賀はがきと暑中見舞い作成支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は昼夜清掃を行っている。また、施設周囲の草花を飾り季節を感じられるよう工夫している。その他、天候や時間帯に合わせてカーテンや空調の調節、窓の開閉等を行い、利用者様が居心地良く過ごせるよう努めている。	居間は天井が高く、広々とした空間である。落ち着いた色調で自然光が差し込み、無用な雑音や空気のよどみも無く、快適な空間である。また、畳の間もあり、冬はコタツに利用される。テレビ、本や雑誌、新聞、グッピーやメダカの水槽、利用者が詠んだ短歌の短冊、野の花、猫の親子など、利用者の心を癒してくれる。3か所のトイレ、ゆっくりと入れる浴室など、気持ち良く過ごせるための工夫が随所に見受けられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳の間、こたつ等をいつでも自由に使用できる。他者様と会話する他、新聞や本を読んだり調べ物をする等、皆様思い思いに過ごされている。時には他者様の居室を訪問し、会話を楽しまれる事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様やご家族の希望を聞き取り、家具の配置に反映している。居室には慣れ親しんだ写真・本・植木等の私物を自由に置いて頂ける事お伝えしているが、持ち込まれる方は少ない。	各居室が清潔で、すっきりと整えられており、利用者の方がらしく、落ち着いてゆっくりと暮せる場所になっている。充実した仕事をしてきた時の自慢の写真、ひ孫も入っている家族写真、テレビ、照明器具、お気に入りの洋服、置時計、好きな花瓶などいろいろな物が見受けられ、その方を思わせる居室である。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内では本人様の自由に行動して頂いており、本も自由に読める状態で見守りを行っている。歯磨き、トイレのパッド入れ等、個人名が分かり易いよう印字し、配置等も工夫している。		

**V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)**  
**※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない